別記様式(第７条関係)

会　議　録

1　会議の名称　富士川町地域福祉計画策定委員会（第２回）

2　会議日時　　令和８年１０月３０日(金)　１０時００分から
　　１１時３０分まで

3　開催場所　　富士川町役場　１階会議室

4　出席者数
（１）委員　　９名（欠席者１名）
（２）事務局関係者　３名
（３）傍聴者　　０名

5　議題
（１）地域福祉計画の骨子・素案について
（２）その他

6　会議資料の名称
①第４次富士川町地域福祉計画　骨子案
②アンケート結果・分析（追加資料）
③第４次富士川町地域福祉計画(案)
④計画の基本的な考え方における詳細比較（変更抽出）

7　発言の内容
議事
（１）地域福祉計画の骨子・素案について（経過・内容説明）
資料①②③④について、事務局より説明。
＜（１）について質疑応答＞

委　員：アンケート結果や町の課題を振り返り、住民の声を大切にしながら基本理念と基本目標を組み立てている点が素晴らしいと思う。人づ

くり、地域づくり、仕組みづくり、環境づくりを、他の課とも連携しながら進める計画になっている。転入者と以前から住んでいる人との交流や、外国籍の方も含めた共生社会づくりも、今の富士川町に合った取組だと思う。防災はどの世代にも関わるため、三世代交流にもつながる。自主防災組織を強化するため、住民や自治会長が防災リーダー養成講座などを受講し、地域に知識を広げる取組も検討してはどうか。新しく住み始めた方には、隣近所に相談してよいことや、地域で頼れる場所を伝えることが大切である。富士川町には地域で助け合う良さがあるので、その魅力を新しい住民にも知ってもらいたいと思う。

委員：自治会に加入していない世帯や、自治会を退会する高齢者も増えている。回覧板やSNSだけでは情報が届かない人もいるため、別の周知方法も検討してほしい。高齢者であっても自治会を抜ける人がいるため、自治会に加入していることを前提にしない情報提供が必要だと思う。

委員：富士川町では、町単独のひきこもり支援センターを設置していただいている。地域とのつながりがほとんどない方がいることを関係者が把握し、保健師や町と相談しながら設置につながった。現在は登録者が60人近くおり、ひきこもりから就労や通所事業所につながった事例もある。成果が数字に表れにくく、時間もかかるが、地道に支援を続けることで前に進んでいる。

事務局：ひきこもりの把握には、民生委員や地域の方による日頃の声かけや見守りが大きく関わっていた。複雑な課題を抱える家庭も多いため、今後も大切に進めていきたい。

委員：高齢者は福祉を自分のこととして考えやすい一方、30代・40代はまだ自分のこととして捉えにくい面がある。『共に支え合い、助け合う』町をつくるには、この世代に福祉への関心を持ってもらうことが必要だと思う。

事務局：30 代・40 代は仕事や家庭のことで忙しく、情報を発信しても見てもらえないことがある。参加しやすい方法について、皆さんからも知恵をいただきたいと思う。

委員：三世代交流は、子ども、親世代、高齢者が自然に関わるきっかけになる。堅苦しい事業ではなく、遊びやゲームを取り入れた方が参加しやすいと思う。

委員長：今年は小学生と高齢者が『昔の遊び』をテーマに、こまなどを使って交流した。

委員：昔の遊びに加えて、子どもや親世代が興味を持つゲームなども取り入れると、参加のきっかけが増えると思う。まずは子どもや保護者が高齢者と会うことが大切だと思う。

委員長：地域の祭りなどでも、子どもと大人が一緒に楽しめるゲームを取り入れ始めている。

事務局：子どもの頃に地域の人と関わった経験が、将来、地域のつながりを大事にする意識につながると思う。社会福祉協議会や各地区と相談しながら、交流の機会を広げていきたい。

委員：30 代・40 代は、仕事の休みが合わなかったり、子育てや家庭の事情があったりして、町の行事や夜の会合に参加するのが難しい状況にある。参加しないのではなく、参加したくてもできない場合がある。若い世代だけに参加を求めるのではなく、家族が代わりに参加するなど、それぞれの家庭の事情に合わせた関わり方が必要だと思う。障害のある子どもの親として、地域の学校との交流を続けてきた。子どもたちが車椅子を運ぶ方法や、一緒に過ごす方法を自分たちで

考えてくれた。交流は、障害のある本人だけでなく、周りの子どもたちにとっても学びになる。
インクルーシブ教育については、地域の学校に在籍することだけを目的にせず、その子に必要な教育は何かを、保護者と十分に相談して考えることが大切だと思う。
障害のある人が花火大会などの地域行事に参加するには、車椅子用駐車場や移動環境、生活リズムへの配慮が必要になる。参加したい気持ちはあっても、外出には多くの準備が必要な場合がある。

事務局：障害のある方や家族が地域行事に参加しやすくなるよう、交流の機会や情報提供について計画の中でも周知していきたい。

委員：近所で一人暮らしの高齢者が亡くなってから、地域の人が気づいた事例が続いた。日頃から地域の変化に気づくことが大切だと実感した。

委員：以前は、近所で食べ物を分け合ったり、組の行事やスポーツ大会を行ったりしていたが、コロナ禍以降、常会や地域行事が減り、近所付き合いが薄くなった。今後、どのように交流を深めるか考える必要があると思う。
同年代で食事会を開くなど、小さな交流を続けている。このような無理のない活動も地域のつながりを深めることにつながる。
障害のある家族を長年介護した経験から、以前は施設入所や医療機関への受診、介護者への支援が十分ではなく、家族の負担が非常に大きい時代であった。施設の運営に問題があった際、利用者や家族は、施設を出されたら行き場がなくなるという不安から、声を上げにくい状況であった。行政に相談し、改善につながった経験がある。
現在は福祉サービスや施設の環境が以前より充実しており、時代が良くなったと感じている。過去には障害のある人や家族への偏見もあったが、福祉への理解は進んできた。

委員：子どもが家族や学校の先生以外の大人、高齢者と関わる機会は貴重である。地域の技能を持つ方を学校に招き、折り紙や昔の遊びを教えてもらう活動がある。子どもは『楽しそう』『面白そう』と思うと参加する。福祉やボランティアを堅苦しく伝えるのではなく、遊び心を取り入れることが大切だと思う。困っている人だけを助けるのではなく、お互いに関わり、支え合うことが福祉だと伝えていきたいと思う。

委員：中学生や高校生に声をかけると、フリーマーケットなどの活動を手伝ってくれることがある。子どもの頃から、家族以外の人と関わる経験を持てることが大切だと思う。若い世代が富士川町に住みたいと思うためには、SNS や町のホームページで、地域の楽しさや魅力を伝えることが重要だと思う。行事の事後報告だけでなく、開催前から楽しそうに発信し、写真や動画の見せ方も工夫するとよいと思う。町の LINE は便利だと思う。困りごとを入力すると、利用できる制度や相談先を案内するチャットボットがあると、忙しい 30 代・40 代にも使いやすいのではないか。

事務局：三世代交流や情報発信についての提案は、今後の取組の参考にする。

（２）その他　　意見、提案なし